

老人福祉施設における草花装飾活動について

岡山県立高梁城南高等学校

内 田 泰 広 板 野 阿 貴 子

1 はじめに

高梁城南高校環境科学科では、本校に近い老人福祉施設ゆうゆう村で、介護に関する校外実習を行わせていただいている。さらに、昨年度から施設の依頼を受け、屋上テラスの一角にプランターを中心とした鉢花の定植・設置を行っている。入所者は足の不自由な方が多く外出が困難であるため、屋上テラスは日光浴を行い、植物に触れることのできる貴重な空間である。

本研究では、ゆうゆう村における今年度の草花装飾活動の内容について報告する。

2 活動計画

4月	年間計画の立案・施設との打ち合わせ
5月	鉢物の引き取り・春の鉢花の定植
6月	春の鉢物の設置
7月	追肥・植物の手入れ
9月	植物の手入れ・植え替え
10月	花の色に関するアンケートの実施
11月	鉢物の引き取り・秋の鉢花の定植 交流活動の準備・秋の鉢花の設置
12月	交流活動の実施

3 活動結果及び考察

(1) 屋上テラスの鉢花装飾

屋上テラスは、東から南にかけて日当たりの良い場所である。春の鉢花には日当たりを好み、暑さに強いマリーゴールド、ジニア、サルビアなどを5月にプランターやボールプランターへ定植し、設置した。夏に向けて黄や赤を中心とした明るい配色になるよう工夫した。さらに、打ち合わせの際、職員の方から野菜を植えてもらいたいという要望が出たので、外見が美しい果菜類を植えることにした。夏はミニトマトとナス、ピーマンを根が十分に伸びるよう、12号の深鉢に定植し

た。また、テラスに通じるリハビリルームでは、夏の日差しが強くなりすぎるので、日差しを遮り、気温の上昇を防ぐため、アサガオを植え、ネットにからめて緑のカーテンを制作した。



写真1 春の鉢花装飾

夏場の屋上テラスは照り返しが強く、高温になるので、9月上旬には3分の1程度の苗が枯死してしまった。そこで、傷んだ花は植え替え、その他の花についても追肥や切り戻しなどの手入れを行った。

秋の鉢花はアンケートの結果をもとに、入所者の方の好む配色を中心に花色を選び、寒さに強い、パンジー・ビオラ・ナデシコ・ハボタンなどを11月に定植した。秋の野菜は寒さに強く、花も美しいソラマメとサヤエンドウを播種した。



写真2 秋の鉢花装飾

屋上テラスの鉢花装飾に関しては、要望に応じて野菜を植栽し、収穫まで行うことができた。さらに、野菜は草丈も高くなり、背丈の低い草花だけでは単調になりがちな植栽に変化を与えることもできた。施設の方からもよろこんでいただくことができた。

(2) 高齢者の好む花色の調査

ビオラ三色を組み合わせ、配色したサンプル写真（5組の中から2組を選択）と、パンジー単色のサンプル写真（12色の中から3色を選択）を準備し、10月にアンケートを実施した。74～95歳、計16名の入所者の方に協力していただいた。

ビオラの配色は青・紫・白の落ち着いた寒色を好む傾向が見られた。（表1）パンジーの花色ではレッドブロッチ・オレンジ・レッド&イエローなど暖色系のはっきりとした明るい色味を好む傾向が見られた。（表2）

以上の調査結果を秋の植栽の参考にして、寒色系のビオラを中心に植栽し、アクセントとして赤・桃色系のナデシコを配置した。

表1 ビオラの配色に関する調査結果

配色	人数
赤・橙・黄	5
赤・青・黄	5
青・紫・白	10
青・黄・白	6
青・桃・白	5

表2 パンジーの花色に関する調査

色	人数	色	人数
レッドブロッチ	8	ローズブロッチ	1
クリアオレンジ	4	イエローブロッチ	0
レッド&イエローブロッチ	3	ピンクシェード	0
パープルフェイス	3	オレンジブロッチ	0
ブルーブロッチ	2	クリアホワイト	0
ライトブルーブロッチ	2	クリアイエロー	0

(3) 草花を活用した交流活動

活動の内容に関しては、土の持ち入れは汚れる問題など施設の使用上難しく、また、入所者の方は足腰が弱いので、いすに座り机上での作業が望ましいと伺った。そこで、今回は押し花を利用したクリスマスカード作りと、草花の絵を描いた神経衰弱風のカードゲームの2種類を準備して、交流活動を行うことに決定した。

2つの活動はどちらも当日に希望者を募り、参加していただいた。クリスマスカードは塗り絵や押し花の貼り付けなど細かい作業も多かったので、生徒が1対1で補助しながら、作品を完成させていただいた。カードゲームはルールが複雑で分かりにくい様であったが、途中でルールを変更して、最終的には理解して楽しんでいただくことができた。



写真3 クリスマスカードの制作



写真4 草花を描いたカードゲーム

4 まとめ

今年度は昨年度までの草花装飾活動に加え、アンケートや交流活動も行った。様々な活動を通して、高齢者の気持ちを理解しようとする姿勢が生徒の中に芽生え、花植えに関しても心を込めて、前向きに取り組めるようになっていった。

自分たちが栽培した草花で人に安らぎ、楽しんでもらえること、草花を活用して人とのつながりが生まれること、そして、そのことが自分自身の自信や喜びにつながることを、ゆうゆう村での実習から生徒は多くのことを学ばせていただくことができた。

5 今後の課題

屋上テラスは通路の確保や防災上の制限がある中でより美しく見えるように、配置の一層の工夫が必要である。また、夏の暑さ対策や暑さに強い苗の選定も必要である。交流活動は来年度以降も継続して行っていきたい。さらに、高齢者の状況を踏まえた上で、内容の選定やルールの工夫を行う必要がある。